

【高齢者インフルエンザ予防接種を希望する方は、接種前に必ずお読みください】

## 高齢者インフルエンザ予防接種(説明書)

### 1 インフルエンザとは・・・

インフルエンザはウイルスに感染することにより発症します。症状としては、38℃以上の発熱、頭痛、関節痛、筋肉痛、のどの痛み、鼻水などがみられ、普通の風邪と比べて全身症状が強いのが特徴です。また、高齢者の方は肺炎を伴う等、重症になることがあります。

### 2 インフルエンザ予防接種の有効性

インフルエンザワクチンは、感染後に発病する可能性を減らす効果と、インフルエンザにかかった場合の重症化予防に有効であることが報告されています。

なお、予防接種を受けてから抵抗力がつくまでに約2週間かかり、その効果は約5か月間程度持続するといわれています。

また、より効果的・効率的に有効性を高めるためには、毎年流行前の12月中旬までに予防接種を受けることが望ましいとされています。

### 3 インフルエンザ予防接種の副反応

予防接種の注射跡が赤みを帯びたり、腫れたり、痛んだりすることや発熱や寒気、頭痛や全身倦怠などがみられることがあります。通常2～3日で治ります。

ワクチン接種後、30分以内の健康状態には充分注意をして下さい。まれに、ショック、アナフィラキシー(じんましん、呼吸困難、血管浮腫等)が見られる場合があるので、医師に連絡が取れるようにしておいてください。

そのほか、きわめてまれではありますが、重篤な健康被害の発生も報告されています。接種前に医師による健康状態の十分なチェックを受けることが必要です。

### 4 予防接種を受ける前に

#### (1)一般的な注意事項

高齢者インフルエンザ予防接種(説明書)をよく読み、必要性や副反応について理解しましょう。

気にかかることや分からないことがあれば予防接種を受ける前に、主治医や看護師などに問い合わせましょう。

予診票は接種する医師にとって予防接種の可否を決定する大切な情報です。

接種を受ける方、又はその付き添いの方が責任を持って記入し、正しい情報を医師に伝えてください。

## (2) 予防接種を受けることができない方

- ① 接種当日、明らかに発熱がある方(一般的に体温が 37.5℃を超える場合)
- ② 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな方
- ③ インフルエンザ予防接種で、アナフィラキシーを起こしたことが明らかな方
- ④ インフルエンザ予防接種で、接種後 2 日以内に発熱、発疹、じんましんなどアレルギーを起こしたことがある方
- ⑤ その他、医師が予防接種には不適當な状態と判断した場合

## (3) 予防接種を受ける際に、担当医師と相談が必要な方

- ① 心臓病、腎臓病、肝臓病や血液、その他慢性疾患で治療を受けている方
- ② いままで、けいれんを起こしたことがある方
- ③ 過去に免疫不全の診断がなされている方及び近親者に先天性免疫不全の方がいる方
- ④ 間質性肺炎、気管支喘息等の呼吸器系疾患のある方
- ⑤ ワクチンの成分に対して、アレルギーを呈するおそれのある方

## 5 予防接種を受けた後に

- ① 予防接種を受けた後 30 分間は、急な副反応が起こることがあります。医師(医療機関)とすぐに連絡が取れるようにしておきましょう。
- ② インフルエンザワクチンの副反応の多くは 24 時間以内に出現します。この間は特に体調に注意しましょう。
- ③ 入浴は差し支えありませんが、接種した部位を強くこするのはやめましょう。
- ④ 接種当日は普段どおりの生活をしてかまいませんが、激しい運動や大量の飲酒は避けましょう。

## 6 インフルエンザワクチン予防接種による健康被害救済制度について

この予防接種は、予防接種法に基づく定期予防接種として取り扱われます。そのため、この接種で重篤な健康被害を受けた場合は、予防接種法に基づく救済の対象となる場合があります。

インフルエンザ予防接種に関し不明な点がある場合は、医師(医療機関)又は下記までお問い合わせください。

### 【問い合わせ】

二宮町子育て・健康課健康づくり班(保健センター内) 電話 71-7100